燃える母校愛で
法政大学と法学部の
さらなる発展を！

第12号　2004年（平成16年）11月25日

法政大學
法学部同窓会報

発行所　法政大学法学部同窓会
発行人　五明　公男（同窓会理事長）
編集人　佐伯　利昭（会報編集長）
事務局　〒101－0047
東京都千代田区内神田1－8－9号
福田ビル6F
TEL. 03 (5283) 7371
FAX. 03 (5283) 7455
http://hosei-hogakubu-dosokai.jp

ザ・インタビュー⑤　リンテック㈱　大内昭彦代表取締役社長

「勇猛果敢」で積極的な攻めの経営

熱意あれば、道はひらける

今年六月、新しい社長が誕生した。粘・接着製品、特殊紙製品のトップメーカー、リンテック株式会社（東京証券取引所一部上場）大内昭彦社長は、昭和四二年法政大学法学部卒業、学生時代は応援団の吹奏楽部に所属という経歴の持ち主だ。その大内社長を訪ね、お話を聞いた。（聞き手　広報委員　佐伯利昭）

――社長ご就任おめでとうございます。最初に会社の事業内容について教えてください。

大内昭彦社長　まず紙を作る洋紙事業、紙と言っても一般紙ではなく、カラーペーパーやファンシーペーパーと言われる特殊な紙を作っています。色つきの封筒や名刺用紙の多くのもの、身近なところでは、クリーニング屋さんで洗濯物にホッチキスでとめる耐洗紙も当社の製品です。次に加工紙事業では、皆さんが、シール・ラベル・ステッカーを貼るときに、はがして捨ててしまう剥離紙や剥離フィルムのトップメーカーです。また、合成皮革を作るときの型紙になる合成皮革用工程紙の生産量日本一でもあります。

当社の稼ぎ頭は、何と言っても粘・接着事業です。一番わかりやすいのはシールラベル用の粘・接着製品です。スーパーマーケットで食料品を買った時に容器（トレー）に値札ラベルが貼ってありますが、それらのラベル素材のトップメーカーでもあります。

また、自動車、電車、バスのボデーに貼られたり、銀行などの屋外看板に貼るマーキングフィルムのほか、建物や自動車の窓ガラスに貼り、ガラスの飛散を防止したり、日照調整をするウインドフィルムも、世の中の半分は当社の粘・接着製品です。

さらに昨今の最先端産業に代表される液晶、プラズマディスプレイなどの光学機能性フィルムの分野でも粘・接着技術がなくてはならないものになっています。特に半導体のICチップ製造プロセスでは、当社のダイシングテープやプロテクトテープが活躍しています。

と、語っても私たちが携わる粘・接着製品の世界は、とめどなく広く、深いのです。

――大学卒業の時にこの会社に就職しようと思ったきっかけは何でしょうか。

社長　学生時代所属していた応援団の吹奏楽部の先輩から、リンテックの前身の不二紙工という会社を紹介してもらったのがきっかけでした。

――入社後はどのような仕事をされていたのでしょう。

社長　東京本社で採用されてから、一貫して営業畑を歩いてきました。三一年間、主に西日本の六箇所の都市で営業生活を送ってきました。そして名古屋の営業所を最後に、九八年の三月に兵庫県・龍野工場の工場長として、初めて製造部門を担当することになりました。

――これまでの会社での生活で思うことは。

社長　入社して三七年になりますが営業というのは、日々悲しいこと、悔しいこと、つらいことがありますけど、総じて言えば、楽しくやりがいがありました。辞めたいとか、今日は会社に行きたくないなどということは、一度もありませんでした。

――社長就任後、忙しい毎日かと思いますが。

社長　もともと人間は忙しいくらいの方が良い、忙しいのが楽しいというのが私の考え方です。六月に就任以来、まず営業の現場を訪ね、お得意様を回ろうということで、北海道から九州まで走り回っています。それ以降もマスコミなど忙しい日々を送っています。

――国外にも拠点をお持ちと聞いていますが。

社長　外国にも十一の連結会社を持っています。これから時間をとって、できるだけ海外も回るつもりです。

――話を学生時代のことに移らせていただきたいと思いますが、大内社長の学生時代の様子をお聞かせください。

社長　学園紛争の後の時代です。一年、二年の時は一生懸命勉強しました。入学と同時に応援団に入ったので、野球のシーズン中は、土日、そして場合によっては月曜日も神宮の応援生活が中心でした。普段の日は午前に授業に出て、昼休みは吹奏楽の練習、そして午後の授業が終わると、夕方は友人とお酒を飲みながら思いを語り合った、そんな毎日でした。大学は勉強も大事ですが、良い友達を得ようという思いでしたので、あるきっかけで吹奏楽部に入ったことが、私の学生活を有意義にしてくれました。

――あるきっかけと言うのを差し支えなければ教えてください。

社長　応援団の先輩から、ガイダンスの時、ありきたりの勧誘ではなく声をかけられ、また野球も好きでしたから、応援団に入れば野球の応援にも行けるということで入団しました。もともと法政に入ったのも、私の故郷は淡路島ですが、当時から東京六大学野球のテレビ放送が流れており、東京六大学に憧れを持っていました。

――楽器は子どものころからやっていたのですか。

社長　大学に入って初めてでした。大学の吹奏楽部と言っても、半分位の部員は初めて楽器を手にする人で…（笑）。ただ吹奏楽におけるドラムというのは非常に重要で、ドラムの音を聞きながら、みんな演奏するんです。私はそこそこのレベルだったんでしょう。東京六大学の吹奏楽部が年に一度行なう演奏会「六旗の旗のもとに」では、一年から四年までたった一人のドラム奏者に選ばれました。

――当時の六大学野球で法政はどうだったのでしょう。

社長　田潤、山本浩二、先輩には長池など黄金時代で、何回も優勝もし、神宮球場から大学までパレードもやりました。

――大学時代の思い出の授業とか記憶に残る先生はいらっしゃいますか。

社長　ドイツ語の先生で、名前は忘れてしまいましたが、全日本のスキージャンプの有名な先生がいらっしゃいました。この先生の授業は楽しかったですネー。我々の時代は卒論もなくゼミにも入らなくても良いという時代でした。

――厳しい社会経済情勢の中、これから社会に飛び立つ後輩達に、大内社長からアドバイスをぜひお願いします。

社長　今は学力が優先で勉強しないと良い会社に入れないという時代かもしれませんが、一番大事なのは「やればできるんだ」という気持ち、私の座右の銘と言ってはおけばさすが、「勇猛果敢」ということ、何事にもチャレンジ精神をもつ、仕事に対して熱意さえもっていれば、おのずと道は開けるでしょう。サラリーマンの場合、はじめから大きな会社に入ってそれなりの存在感のある仕事をするのか、小さな規模の会社に入って、自分の力で会社を大きくしようとするのか、それぞれ気概の問題でしょう。

――最後に新社長としての抱負をお聞かせ下さい。

社長　会社というのは、利益を出すことによって社会から認められるものだと思います。ですからリンテックという会社も、引き続き成長性を持続し、良い会社、強い会社でなくてはならないと考えています。それが結果として世の中に貢献できる、投資家に還元できる、そして社員の生活の安定にもつながる、さらに次の発展のための投資にもなって行く、そう思っています。リンテックの企業価値を高めるために、経営資源を活かした、積極的な攻めの経営をしてまいります。

退任のあいさつ

法学部同窓会顧問　原島　榮一

総会で退任のあいさつを終えた原島前会長（撮影、後藤紘志）

会員皆様方におかれては、ご壮健にて各般にわたるご活躍、心から敬意を表する次第であります。

私このたび会長を辞任いたしました。最近体調すぐれず一年半前から不調が続き、医師は、回復するまである程度日時を要するとのことでありました。

また、平成十六年春の叙勲に際し、瑞宝中綬章を受章し後進の方々に道を譲るべきと判断しとの右二点から辞任することといたしました。

同窓会発足以来会長として何も出来ず恐縮しておりますが、私なりに同窓会の発展に邁進してまいりました。幸いにも理事長・副理事長・事務局長、役員の皆様の献身的なご協力をいただき任務を全うすることができました。会員皆様に心から御礼を申し上げます。

同窓会も今後更なる発展をめざすため、母校を愛する会員を一人でも多く増やすことであり、広報や広聴、事業活動を一層充実させることが重要であります。

私も顧問としてこれからも皆様と一緒になって同窓会の発展に力を注ぎたいと考えております。

結びに法学部同窓会の発展と会員皆様のご健勝を心から祈念いたします。

※原島前会長より、六月二六日定期総会当日一〇万円の御寄付を頂きました。

初代市長に就任して

西予市長　三好　幹二

三好幹二氏

法大法学部同窓の皆さんが、各界で活躍されていることを同窓会報で見させていただき、励みと心強さを感じる次第です。

私は、本年四月一日に愛媛県南予地方の五町で合併し誕生した西予市において、市長選挙に立候補を表明し、五ヶ月に亘る厳しい選挙戦でありましたが、五月十六日に市長に当選いたしました。現在市長になり、もうすぐ五ヶ月を迎えようとしています。

今日、地方を取り巻く情況は加速的に変化していまして、地方自治に関わって来た者でも、その目まぐるしさに戸惑いも隠せません。地方に自主・自立を促す地方分権、国の聖域なり財政構造改革、それに伴なったから、応援団に入れば野球の応援にも行けるということで入団しました。もともと法政に入ったのも、私の故郷は淡路島ですが、当時から東京六大学野球のテレビ放送が流れており、東京六大学に憧れを持っていました。

――楽器は子どものころからやっていたのですか。

社長　大学に入って初めてでした。大学の吹奏楽部と言っても、半分位の部員は初めて楽器を手にする人で…（笑）。ただ吹奏楽におけるドラムというのは非常に重要で、ドラムの音を聞きながら、みんな演奏するんです。私はそこそこのレベルだったんでしょう。東京六大学の吹奏楽部が年に一度行なう演奏会「六旗の旗のもとに」では、一年から四年までたった一人のドラム奏者に選ばれました。

――当時の六大学野球で法政はどうだったのでしょう。

社長　田潤、山本浩二、先輩には長池など黄金時代で、何回も優勝もし、神宮球場から大学までパレードもやりました。

――大学時代の思い出の授業とか記憶に残る先生はいらっしゃいますか。

社長　ドイツ語の先生で、名前は忘れてしまいましたが、全日本のスキージャンプの有名な先生がいらっしゃいました。この先生の授業は楽しかったですネー。我々の時代は卒論もなくゼミにも入らなくても良いという時代でした。

――厳しい社会経済情勢の中、これから社会に飛び立つ後輩達に、大内社長からアドバイスをぜひお願いします。

社長　今は学力が優先で勉強しないと良い会社に入れないという時代かもしれませんが、一番大事なのは「やればできるんだ」という気持ち、私の座右の銘と言ってはおけばさすが、「勇猛果敢」ということ、何事にもチャレンジ精神をもつ、仕事に対して熱意さえもっていれば、おのずと道は開けるでしょう。サラリーマンの場合、はじめから大きな会社に入ってそれなりの存在感のある仕事をするのか、小さな規模の会社に入って、自分の力で会社を大きくしようとするのか、それぞれ気概の問題でしょう。

――最後に新社長としての抱負をお聞かせ下さい。

社長　会社というのは、利益を出すことによって社会から認められるものだと思います。ですからリンテックという会社も、引き続き成長性を持続し、良い会社、強い会社でなくてはならないと考えています。それが結果として世の中に貢献できる、投資家に還元できる、そして社員の生活の安定にもつながる、さらに次の発展のための投資にもなって行く、そう思っています。リンテックの企業価値を高めるために、経営資源を活かした、積極的な攻めの経営をしてまいります。

ぎ出され今日に至っています。

初代市長として私の最大の責務は、将来の西予市の基礎固めをすることが第一義であります。「皆さんと共に思いっきり創造」を掲げ、「それぞれの地域が輝き、それぞれの人が喜び、市民が納得するまち」を目ざすことを訴えています。

さらに、市になった意義を訴え、それを生かす政策を打ち出しています。

毎晩市政懇を開催していますが、何せ東京二十三区に匹敵する広い市ですから二ヶ月に亘ります。私の市政基本方針や実践的課題を提言し、市民の理解を得るため頑張っています。また、当市はシーボルトの娘イネが五年間医学研修したことを縁として、シーボルト生誕地のドイツ・ヴィルツブルク市と交流をしていますが、十月中旬に千三百年祭りの招待で出席します。市長職は、体力勝負であると実感する毎日です。

愛媛県西予市宇和町山田
西予市長　三好幹二
平成十六年十月七日

平成16年度法学部同窓会 定期総会・懇親会の御報告

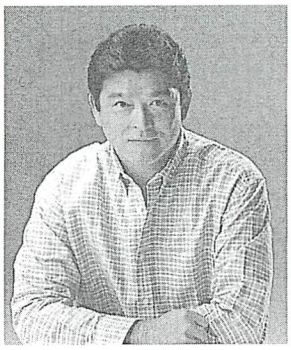
法政大学法学部同窓会16年度総会が6月26日（土）午後1時30分から、東京都千代田区の赤坂プリンスホテル別館1階グリーンホールにて開催されました。午後1時から本学出身の元広島カープ4番打者・現NHK解説者の小早川毅彦氏の講演会、午後2時から定期総会が開催されました。小早川氏の講演は日米野球の比較そして、日本プロ野球界で活躍する選手、監督の個性をひきあいにしつつ、野球界の発展を思う小早川氏の愛情あふれるお話でした。

定期総会において、会則が大幅に変更されましたので、個々の説明がなされました。

懇親会には、下森前総長、遠藤前最高裁判所判事、大島明治安田生命相談役、国会議員の諸先輩が多数出席され沖縄、北海道の会員の方々と肩を寄せあいつつ歓談されました。

運営委員会、事務局としましても、参加しやすい定期総会を目指しております。会員の方の忌憚のない御意見をお待ちしております。

小早川毅彦氏講演 要旨



小早川氏

今日はヤンキース対メッツの試合の解説の予定でしたが、雨で中止になったので時間に間に合いました。

NHKの解説というのは企業名が言えないので苦労します。今日は法政の集まりなので、大サービスの話をしたいと思います。

実はこの三月に法政大学を卒業しました。今の体育会学生部員は卒業したいということでよく授業に出ます。私の時はそうではなく武蔵小杉の合宿所を出て、渋谷に行き山手線を一周して合宿所に帰る、そんな生活でした。だからドラフトで指名されて、卒業をしないまま広島に入団しました。そして現役引退後、法政に再入学してこの春めでたく卒業したんです。

日米の野球の違いは、メジャーの選手はグラウンドでベストを尽くします。ところが日本では一塁への全力疾走を怠っている選手がいます。米国の選手は、ファンが球場へ足を運ぶ、それが給料につながるということをよく知っています。だからピッチャーゴロでも全力で走るんです。

今、近鉄とオリックスの合併の話があります。かつて大リーグでモントリオール・オリオールズのオーナーが球団から手を引こうとしたことがありました。その時、大リーグの機構が球団運営を始めたのです。なぜできたか。日本では放映権料は球団に入りますが、米国では機構に入るんです。今話題の年金にも差があります。

日本では十五年間プレイすると六十五歳から、月十三万円の支給ですが米国では十年のプレイで月百万円です。

日本の野球は、米国の悪いところばかりを真似てしまいました。選手会を作ってフリーエージェント制を認めさせました。これにより選手の年俸の頭を引っ張ればドもついて来ると思ったが、それはできませんでした。

高い年俸の選手はできましたが底辺は上がっていません。結局はフリーエージェント自体が選手の首をしめる結果となってしまいました。もう一つは人工芝です。人工芝は体に負担がかかります。

今年のアテネオリンピックの野球解説に星野前阪神監督と行きます。星野さんからは「わしは知らんけんのう、お前が資料集めて来いよ」と言われています。中継で星野さんがする話はすべて私の資料からだと思ってください（笑）

理事長就任の挨拶

同窓会理事長　五明　公男

五明理事長

同窓会が設立され早や七年目を迎えました。当会設立に向け原島前会長、高山前事務局長他皆様が大変御苦労なさったと伺っております。現在では会員（住所確認済会員）一、八五二名の大世帯に発展致しました。この様に多くの会員の参加が可能となったのは、設立後に出来た、組織・事業企画、広報、運営各委員会に所属する理事の方々の熱意の賜物であると思います。現在では五十五名の理事の皆さんにご協力頂いております。発会から会長として会組織拡大の為に並々ならぬご尽力されました原島栄一氏がご当人のご都合によりこの六月二十六日付にて退任されました。本当に長い間ご苦労様でした。心より感謝申し上げます。後任会長につきましては、現在理事会において慎重に検討中です。決定致しましたら即、会員の皆様にお知らせ致します。

同窓会としてこの七年間、最大の課題である大学の発展に支援寄与するという目的の為に、①卒業生祝賀パーティー　②救急法講習会　等、又会員に対しては①定期総会・懇親会②会報発行③講演会④旅行会⑤六大学野球応援の集い⑥多摩校舎見学会等、会員相互の親睦の為に企画、実施してまいりました。今後も、大学発展に寄与し、会員相互の親睦を図る為、全理事が一丸となって、努力し会員の皆様に喜んでもらえる様に頑張ってまいります。

改正・同窓会会則の概要

同窓会会則は平成16年5月26日の理事会において全面改正されました。その概要は次のとおりです。

1　目的・事業

会員の親睦と法政大学の発展への寄与を目的とし、事業として、①会員名簿・会報の発行、②講演会、談話会等の実施、③大学との連絡、④校友連合会との連携、⑤学生への顕彰・援助に関することを行うこととしました。

2　会員

会員は正会員と名誉会員に分け、正会員資格は、①法学部の卒業者、②大学院法律学専攻課程及び政治専攻課程の修了者、③法学部に3年以上籍を置いた者で理事会の承認を受けた者、④その他本会の発展に寄与した者で、理事会の承認を受けた者は理事会が推薦した者を名誉会員とすることができるものとしました。

3　同窓会の機関

（1）総会

総会は親睦機関とし、年1回開催することとしました。

（2）評議会

評議会は、評議員（6～15名）、会長及び正副理事長で構成し、主として理事・監事の任免を行うこととしました。（従来は理事会で理事の任免を行っていましたが、これを改めチェックアンドバランスを図りました。）

（3）理事会

理事会は、理事で構成し、最高議決機関として位置付けました。

（4）役員の種類、定数

役員として、会長・理事長各1名、副理事長5名以内、会計理事1名、設置し、会務の遂行上理事長が特に必要と認めるときは、理事会の承認を得て臨時に特別理事30名以上80名以内（会長、理事長、副理事長、会計理事を含む。）及び監事2名を置くこととしました。

会長、理事長は理事の互選により選出し、副理事長は理事長が理事会の承認を得て指名することとしました。なお、会長は、本会を代表しますが、象徴的存在とし、会務の実質的運営責任は理事長が負うものとしました。

（5）事務局

事務局長は、副理事長がこれに当たり、常務処理を統括することとしました。

（6）財務室

財務室に財務室長を置き、会計理事をもって当て、①予算の支出及び決算に関する事項、②予備費支出の承諾に関する事項等に関することを処理させることとしました。

4　専門委員会

本会の業務を円滑に執行するため、常設の専門委員会として、①運営委員会、②組織委員会、③事業企画委員会及び④広報委員会を設置し、会務の遂行上理事会に臨時に特別委員会を置くことができることとしました。

5　終身会員とその会費の取り扱い

正会員は、終身会費（年会費の20年分（8万円）を一括払いして年会費の納入義務を免除されるものとし、終身会費は、その入金時期を含む会計年度の会費収入として処理し、将来の給付と対応させるために終身会費準備金を各会計年度において積立てることとしました。なお、終身会費の額を6万円から8万円に改訂しました。

そして、会員の皆様に愛される同窓会にする為には、安定した会費収入も重要なポイントになります。一、八五二名中一一九名の終身会員（八万円の終身会費納入済者）を除いて、ここ数年約四十％弱の納入しかございません。私共役員もそれぞれの機会を通してPRに努めますが、会員各位におかれましても一人でも多くの卒業生に声をかけて頂きたく紙面をかりてお願いする次第です。

私は平成十二年より副会長という職をおおせつかり、現在に至りましたが、五月の理事会での会則改正（会長・理事長職の分離）により理事長に任命されました。

多々前段で申し上げました様に、会の運営費（会費収入）確保、組織拡大等々の問題解決の為、会員の皆様、理事役員の方々のご協力のもと、理事長としてリーダーシップを発揮し、同窓会発展の為尽力するつもりでおります。よろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

鈴木貞司法律事務所（昭34卒）
弁護士　鈴木貞司
札幌市中央区北1条西10丁目　札幌弁護士会館
今年6月から、日本調停協会連合会の副理事長に就任し、東京出張が多くなりました。10月に千葉在住の親戚の者を連れてボアソナードタワー最上階に案内し喜ばれました。

小野瀬敬二
在学中、司法会に所属したことがある方、ご連絡下さい。卒業生の会「三日会」を随時開催しています。
〒199－0204　神奈川県津久井郡藤野町小渕一八一四－七
電話　0426－86－7045
昭和三五年三月卒

法政大学法学部同窓会
常任理事
企画委員長　山田綾子
〒264－0002　千葉市若葉区千城台東三－三十四－1四
電話・FAX　043－236－3349
同窓会でお会い致しましょう
昭和三十六年三月法学部法律学科卒業

法政大学評議員
法学部同窓会
会常任理事　山口正雄
〒229－0011　相模原市大野台六－十四－十六
昭和三十七年三月法律学科卒業

研友社印刷株式会社
代表取締役
社長　内藤松夫
TEL　〇三－三五六四－〇三三八
昭和三十七年三月法律学科卒

東京弁護士会
弁護士　五藤昭雄
〒104－0032　東京都中央区八丁堀三－二－二－八〇二
電話　〇三（三五五一）五九九二
FAX　〇三（三五五一）五九四六
昭和41年法学部法律学科卒業

鈴木武志法律事務所
所長
弁護士　鈴木武志
〒102－0073　東京都千代田区九段北四丁目一番五号
FAX　〇三（三二三七）七七一一（代）号室
昭和42年法学部法律学科卒業

東陽商事株式会社
総合ビル管理・ハウスクリーニング
代表取締役
社長　増渕弘機
〒103－0026　東京都中央区日本橋兜町11番10号
電話　〇三－5643－3121
FAX　〇3－5643－3181
昭和42年法学部卒業

中島法律事務所
弁護士　中島真介
〒104－0061　東京都中央区銀座七－二－二二　同和ビル三階
電話　03－3574－8608
昭和42年法学部法律学科卒業

田口法律事務所
弁護士　田口穰
〒113－0033　東京都文京区本郷三－三－一－5ビル一〇三
電話　〇三－五六八四－六九五七
FAX　同上
昭和43年法学部卒業・昭和46年修士課程修了

法政チャイナ設立二周年

記念総会が北京で開催

法政チャイナ設立二周年記念総会が、平成16年6月20日（日）北京市内、会場「焼肉碗」で開催された。

総会には日本より応援ツアーに参加した、法学部同窓会関係者6名も出席し、北京市内の在住者・勤務者10名、香港華南地区からの出席者2名ら合計24名で盛大に開催された。

総会は司会　楠本路子・潘楠・福留博等によって進められ、曹京鉉会長が「2003年はサース問題で開催できず、今日の会合となったが今後の発展を期す」と挨拶された。

法政大学校友連合会代表挨拶は佐伯弘治会長のお祝メッセージを中野忠（総務委員会副委員長・事業担当）氏が紹介し、法政大学金子征史常務理事のメッセージを佐藤忠篤（組織委員会副委員長）氏が読み上げた。

続いて各学部同窓会会長のメッセージを各学部の参加者から披露された。法政チャイナの出席者、法学部卒業生4名は、佐藤宝（87法法金子ゼミ）、楠本路子（91法法）、野津美果子（93法法金子ゼミ）、曹京鉉（94法政）です。法政大学校友連合会の応援ツアーに参加した法学部同窓会関係者6名は

佐藤忠篤（60）、豊田伸哉（62）、後藤紘志（63）、平井國政（64）、梶栗俊朗（68）、須永茂雄（77）でした。

この後、自己紹介があって懇親会に移り、乾杯の音頭を中野忠氏が法政チャイナの発展を期して高らかにした。

懇談は近況報告と昔話に花が咲き、時間を忘れて進んだ。

最後はリーダー久保田和則氏による校歌斉唱で閉会となった。

今後は、北京との情報交換・国内での情報交換を約束して散会した。

尚、法政チャイナの支部は、北京天津地区、上海華東地区、香港華南地区、東京地区があります。

法学部人国記（6）

学者編その6

青木元総長

戦後、中央労働学園大学との合併で社会学部を創設し（1952年）、法学部に労働学科を設置した（1949年）法政大学には、社会学部をはじめ各学部に著名な労働関係の研究者が多く集まった。法学部でも、わが国労働法学の先駆者の一人である故有泉亨先生（元東大教授）が、一時期、専任教授をされていた。その頃の学生で有泉先生のご指導を受け、法学部助手として母校に奉職されたのが、その後、常務理事、総長を務められた故青木宗也先生である。先生は、同時期に社会政策、労働法を担当された故舟橋尚道先生（東大卒・元本学常務理事）と共に、内外から法政大学法学部に社会法（労働法、社会保障法などの総称）の二枚看板ありと称されていた。特に青木先生は、母校での研究者養成にも熱心に取り組まれた。先生のご指導を受け、労働法研究者として全国の大学で教鞭をとっていた卒業生は数多い。

本学に奉職している私と浜村彰教授、長峰登記夫教授はいずれも青木先生のご指導を受けたが（「母校で教鞭をとる卒業生」会報第5号、第8号ですでに紹介済）、それ以外に、小川環（北海道教育大学名誉教授、1953年法法卒業）、平野毅（静岡大学名誉教授、1960年法法卒業）、野村晃（日本福祉大学教授、1974年大学院博士課程終了）、石橋洋（熊本大学教授、1971年法法卒業）、藤本茂（駒澤大学教授、1972年法法卒業）、野間賢（元東亜大学専任講師、1981年大学院博士課程終了）、大曽根寛（放送大学教授、1972年法法卒業）、千々岩力（高岡法科大学教授、1970年大学院修士課程終了）の先生方は、いずれも青木先生の門下生である（いずれも本学大学院で青木先生に指導を受けた方々である）。

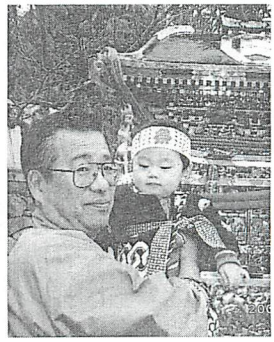
さらに、青木先生の門下生ではないが、法学部の卒業生で社会法研究者として全国の大学で活躍している先生も多い。原田輝男（朝日大学名誉教授・舟橋先生の門下生、1965年II法法卒業）、奥山明良（成城大学教授、1971年法法卒業）、山内久史（帝京大学教授、1972年法法卒業）、中野育男（専修大学教授、1981年II法法卒業）、土田道夫（同志社大学教授、1979年法法卒業）、大場敏彦（流通経済大学教授・私の門下生、1981年法法卒業）、大原利夫（関東学院大学専任講師・私の門下生、2001年大学院博士課程修了）など錚錚たる研究者を輩出している。

―第六回―

他校で教鞭をとる卒業生③

法政大学法学部教授
（常務理事）　金子　征史

地方短信



愛媛・松山・能田雅雄

皆さんお元気でしょうか。すっかりご無沙汰しております。年に数回仕事で上京するたびに、環境の変化に驚いています。

最近、愛媛県においても西予市の三好さん初め、久方高原町でも法政大学出身者が首長に当選されたことを聞き、心強く思っております。先般、西予市三好市長就任を祝う会で、久しぶりに先輩や後輩に会うことができ本当に懐かしく、嬉しく思いました。

ところで、私にも高知に孫ができました。わざわざ高知に仕事をつくって（女房談）孫に会いに行くのが楽しみとなっています。

私は、家業の農業を手伝いながら『街の法律家』ともあり、それら悲喜ともごもの出来事が、今では走馬灯のようによみがえる。

現在の私は、人と環境の多様性に沿って物を創り出す仕事（建築）に全力投球をしています。自然によって生かされてきた人間が、自然との共生を考えることは理の当然であり、それを実現することが、健康と安全を守る建築に必要不可欠なことと痛感しています。各分野で、アンゲルを大きく捉え、グローバルな思考を行うことが肝要ではないか。また、IT産業が盛んな今日、ともすると機器自体とのコミュニケーションが多くなり勝ちですが、ぬくもりを感じる直接対話により、人間性の機微を培うことも重要ではないか、等々。特に若い方に説きつつ自戒する昨今です。目下、能の梅若六郎師（平成八年観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞）と作る「日本伝統文化交流会」で、古典芸能の相互交流を深め、特に、発足二十八年目の「芝落語会」では、「聴く」「歩く」「語る」の様々な企画で市井の歴史探訪にいそしんでいます。またご縁があって、経済学部の記念シンポジウムに本学出身の師匠をお招きし、会に「華」を添える等、各所で得られる「一期一会」の感動が、私の仕事の大切なエネルギー源になっています。

短信　こんなことしています

『会う・語る・温まる』会へ！

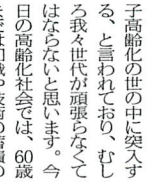
西田　高光（一九六八年卒）

当時、大講義室の授業でも、先生方の情熱が肌に伝わっていた。裁判官出身の伊達秋雄教授（刑事訴訟法）は、実務レベルから得られた論理が鋭く魅力的であり、独自の国際平和論を展開されていた安井郁教授（国際法）は、学生の心を大いに鼓舞し、講義終了時には何時も大拍手が送られていた。この頃、六大学野球も黄金時代を迎え、神楽坂や新宿は、優勝する度に学生のスクラムと校歌が沸き返っていた。一方、大学が学生運動に揺れる折は、学内で不安な夜を明かすこと言うか『田舎の法律家』として行政書士を生業としています。

家業は、愛媛の名産『伊予柑』農家ですが、経営は、家族経営協定で女房・子供に任せています。伊予柑生産にも陰りが見え、新しい品種への更新が課題となっています。農業の関係では、今年大自然の力を見せつけられた思いです。度重なる台風の上陸により、丹精込めて何年もかけて育てた農作物が一夜のうちに吹き飛ばされてしまい、人間の力の非力さを痛感しました。最近見栄えの良い農産物より、中味が見直されるようになり、私方でも安全・安心そして旬の味づくりに重点をおいております。

孫が生まれる年になり、地域のボランティアのお手伝いもしています。地域総合型スポーツクラブの組織化・運営・普及を民間主体で展開するものです。これには時間がかかりそうです。最後に一言、いつでも、誰でも同窓生の集えるサロンがあるといいですね。

第二周目の人生



中村　眞一

現在の私の最大の関心事は、コンピューターと任事との関係です。来年の3月頃には不動産登記にコンピューターを使用して登記の申請をする、いわゆる「オンライン申請」が導入されるからです。現在の登記法は明治32年制定ですから、100年以上も経過しています。しかも、私達の開業当初予想もしなかった「オンライン申請」の導入で、「書面による登記の申請」に慣れ親しんだ我々世代の司法書士は、一同に困惑しております。かつては、いわゆる「オタク」といわれる人々に対しては一種特別な感情をいだくことがありましたが、今回のような大改正に直面すると我々世代は「オタク族」には到底かないません。しかしながら当惑ばかりしてはいられません。これからは急速な少子高齢化の世の中に突入する、と言われており、むしろ我々世代が頑張らなくてはならないと思います。今日の高齢化社会では、60歳までは知識や技術の蓄積の時代とし、その蓄積を存分に活かすのは60歳以降の二周目の人生だ、と主張している学者もおり、このような主張に我々は勇気づけられます。今まで築いてきた知識や経験を土台として、さらにコンピューター等の新しい知識、技術を身につけることは、我々世代にとって鬼に金棒となるでしょう。それには時代に取り残されないように、普段から新しい知識や技術を貪欲に取り入れる姿勢や努力が必要となることでしょう。

不動産鑑定士　橙法会（法政大学OB会）
副会長　相川　榮　徳
〒100-0002　東京都千代田区麹町1-5-12
株式会社フェアー新宿ビル
TEL（3353）0303
FAX（3550）0654

昭和四十三年卒

弁護士　池田利子
〒167-0051　東京都杉並区荻窪4-29-26
電話〇三（三九三二）九〇一〇
FAX〇三（三九三二）二八八七

昭和43年卒業
昭和46年大学院修士卒業

司法書士
浄土真宗僧侶　和田尚（尚元）
〒170-0014　東京都豊島区池袋一丁目三六番七一七〇一号
電話〇三（三九八四）八三六八
FAX〇三（三九八四）八三八九

昭和44年卒業
昭和49年大学院修士卒業

簡易裁判所
訴訟代理人
司法書士　松嶋晃正
東京都中央区日本橋人形町MA人形町ビル
電話〇三（三六六六）五二二九番
E-mail matusima 2037@ams.odn.ne.jp

昭和四四年法・法卒

㈶日本不動産研究所札幌支所
上席主幹
不動産鑑定士　市川喜通
〒060-0005　札幌市中央区北五条西二丁目
JR札幌駅に隣接
JRタワーオフィスプラザさっぽろ九階
TEL〇二一一二八二一四〇一七
FAX〇二一一二八二一四〇一八
転勤により札幌に来てます

昭和四十四年卒

社団法人首都圏不動産公正取引協議会
常任理事　関口信之

昭和四四年三月法律学科卒

法政大学体育・スポーツ研究センター
所長
教授　五明公男
〒194-0298　町田市相原町四三四一法政大学体育館内
TEL〇四二一七七二一七二〇
FAX〇四二一七八三一七二五

昭和四十四年三月法律学科卒

大橋特許事務所
弁理士　大橋邦彦
〒113-0033　東京都文京区本郷二一一一一六　NP2ビル十一階
電話〇三（三八一一）五九二一
FAX〇三（三八一一）五九七〇

昭和44年法学部法律学科卒業

山寄法律事務所
弁護士　山寄正俊
〒101-0047　東京都千代田区内神田一一八福田ビル六階
電話〇三（三二五一）三五〇五
FAX〇三（三二五一）三五〇五

昭和44年法学部法律学科卒業

高橋国際特許商標事務所
弁理士　高橋康夫
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋三丁目十一番二〇号
電話〇三（三二六四）〇七〇八（代表）
FAX〇三（三二六四）〇九〇八

昭和45年法学部卒

楽しきかな箱根一泊旅行

企画委員長　山田　綾子

七月十一日、十二日の両日、当会理事長の五明公男教授のご尽力で法政箱根荘に理事十六名ほどの参加で出かけて来ました。

今年の猛暑の中、混雑した新宿駅で指定の待ち合わせ場所がはっきりせず右往左往。ロマンスカーに乗車寸前迄ハラハラ、ドキドキものでした。幸いに一人の乗り遅れもなく、座席も隣同士で快適な車中でした。

箱根荘に直接行く人もおり車中、八人ほどの私たちはまるで小学生のようにはしゃぎ、大学時代、青春時代の話に花が咲き気がつくと落雷のため、大事をとってロマンスカーはしばし停車。貴重な青春時代に同じ大学で学んだ想いは、年をとるにしたがって強くなるようです。北海道から、そして沖縄から皆さんが集う同窓会の原点なのでしょう。

今年の法学部同窓会の総会・懇親会は六月二十六日、赤坂プリンスホテルで行われ全国から出席して戴きました。久しぶりにお会いする方との「お元気そうですね。今年から年金生活ですよ」との会話も弾んでいました。来年も皆様とお会いするのを楽しみにしております。

箱根湯元から登山電車に乗り換え強羅下車。駅前のお店で宴会のためのお酒、おつまみを大量に仕入れて、宿へ向かうバスに乗る。一年を通して人気の箱根はバスも満員。箱根荘は初めてですが、又お邪魔したくなる施設でした。温泉に入る人、疲れて部屋に横になる人と様々。

宴会を待っている私は館内を視察？して棟方志功の作品にふれる。これも又旅の楽しみの一つでしょう。

山嵜事務局長、植村財務委員長も到着し、宴会の始まりは五明理事長が準備されたお席順、お土産カード引きから始まり、笑いの渦で大いに盛り上がりました。

お土産品は大学名の入ったバスタオル、湯飲み茶碗等で、私はその湯飲みを愛用しています。気の利いたお土産をたくさん用意された五明理事長に感謝と同時に、企画委員会の気遣いが足りなかったのでは、と反省しています。

私の同期が四人参加でしたが、偶然に席が隣同士になり驚きました。お料理が本当に美味しく、お酒の飲めない私は美味しいものを戴くのは幸せを感じます。

お酒が入り、会話が弾み時間が経つのも忘れる程でしたが記念写真を撮り、お部屋での二次会へと移りました。日本間の続き部屋で雰囲気を変えての二次会の始まりですが、用意したお酒が途中でなくなり貰いに行ってくれた方もおり、皆さんで大いに楽しんでくれた事と思います。カラオケルームでは男性軍の歌の上手さに脱帽です。演歌、ポップス、流行歌と何でもございでした。

元気な皆さんとはこれ以上のお付き合いは出来ずに同室の高島さんとお先に失礼です。翌日は箱根登山電車、ケーブルカー、ロープウエイ、箱根登山バスに乗り、芦の湖では海賊船に乗って記念写真。小田原駅でバスを降り、駅前のお寿司屋さんでお昼をとる。

昨夜の疲れもないようでロマンスカーでのお話は尽きないのでした。終点、新宿駅で解散。企画委員会は大学祭見学、裁判所見学、都庁庁舎見学等予定しています。詳しくは事務局でお尋ね下さい。

卒業生祝賀会のお知らせ

法政大学の卒業式は毎年3月24日施行されます。法学部同窓会も、この日にあわせて法学部教授会の協賛をえて法学部卒業生の祝賀会を実施しております。平成16年3月の祝賀会では、お二人の大先輩である同窓会会員が511番教室の卒業生の席に一緒に座っているなどの飛び入りがありました。

事務局としては、いかなる参加形式にせよ、同窓会員とともに、卒業生祝賀会を実行したい。

平成17年3月24日の午後2時30分に開催する予定です。法学部掲示板に祝賀会の教室を掲示しますので是非、御参加下さい。

無料法律相談所開設

法政大学法科大学院ではリーガル・クリニックの授業の一環として7月1日より法科大学院棟1階に法律相談所を開設し、弁護士による法律相談を実施しています。

相談内容
特に制限はありません。
ただし、クレジット・サラ金関係事件は、弁護士会など他機関がありますので、そちらを紹介しています。

お申し込み方法
予約制となっております。
電話で（03－3264－5323）まで、お申し込みください。

電話予約受付時間
月～金／午前10：00～12：00　午後1：00～3：00

場所　法政大学法科大学院棟1階　法律相談所

相談料　無料

相談担当弁護士
法科大学院の専任教員である弁護士および法科大学院協力弁護士

相談される上でのご注意
リーガル・クリニックという授業の一環として行うものであるため、法政大学法科大学院の学生が同席することもある旨、あらかじめご了解下さい。学生は、法科大学院との間で守秘義務契約を交わしているほか、大学院が定めた規則に従うこととなっています。

相談時間は1時間以内を目安としています。

（文責　法政大学法科大学院無料相談所）

会員の確認について

同窓会のホームページでもお願いしていたのですが、次の方の住所・氏名・学科が不明です。御本人又はお知りあいの方でも結構ですのでお知らせ下さい。

フジタカズシ（終身会員）
平成12年12月4日に旧第一勧業銀行神田駅前支店に6万円を振り込んでおられます。

国際政治学科が誕生

法学部に新たに「国際政治学科」が二〇〇五年三月開設されることになりました。定員は一三五名。「アジア国際政治コース」および「グローバル・ガバナンスコース」の2コースからなり、徹底した基礎学習と多様な選択が特徴と言えます。

会費納入・寄付金のおねがい

財務委員会委員長　植村五十三

平成16年度（16年4／01～17年3／31）の会費（年間四千円）未納の方は早めにご納入下さい。また12年度、13年度、14年度、15年度分未納の方もご納入をお願い致します。なお一括して八万円ご納入下されば生涯会費が不要な「終身会員制度」もありますので終身会費八万円を一括して振り込まれても結構です。また苦しい財務を補うために有志の方の寄付金も募っております。ご協力をお願い致します。

――◇――

（振込先）
みずほ銀行　東京中央支店
普通預金
口座番号
8558615
名義人
法政大学法学部同窓会
財務委員会　委員長
植村五十三（ウエムライツミ）

法政大学法学部同窓会名簿

16年1月以降入会者

［　］は、卒業年次
（　）は、卒業学科
法＝法律学科
政＝政治学科

［二〇〇三］中田　喜子（政）
［二〇〇四］和田　敬史（政）
［二〇〇四］鈴木　孝明（法）
［二〇〇四］山本　裕子（法）
［二〇〇四］田中　直宏（法）
［二〇〇四］落合　裕一（政）
［二〇〇四］工藤　健太（政）
［二〇〇四］石井　徳美（法）
［二〇〇四］橋本　善徳（法）
［二〇〇四］佐藤　晋（法）
［二〇〇三］栗山恵一郎（法）
［二〇〇二］布留川智美（法）
［二〇〇四］塚田　鉄也（政）
［二〇〇四］竹村　靖久（法）
［二〇〇四］重田　千博（政）
［二〇〇四］中村　寛（法）
［二〇〇四］小西　一豪（法）
［二〇〇四］勝谷　祐介（政）
［二〇〇四］直田　侑（法）
［二〇〇四］森田　和夫（法）
［二〇〇四］古城　則幸（政）
［二〇〇四］小橋　謙三（政）
［二〇〇四］星野　朋子（法）
［二〇〇四］高塩　知美（法）
［二〇〇四］鈴木　和憲（政）
［二〇〇四］榎本光一郎（政）
［二〇〇四］久保木宗一（政）
［二〇〇四］山崎　洋一（法）
［二〇〇四］山本　正彦（法）
［二〇〇四］山内　一潤（法）
［二〇〇四］栗原　宣史（政）
［二〇〇四］赤澤　隆道（法）
［二〇〇四］杉藤　仁洋（法）
［二〇〇四］岡部　章夫（法）
［二〇〇四］唐沢　正樹（法）
［二〇〇四］畠山　信孝（政）
［二〇〇四］柏木　馨（法）
［二〇〇三］谷　祐介（政）
［二〇〇四］佐藤　茂美（法）
［二〇〇四］直田　侑（法）
［二〇〇四］杉藤　仁洋（法）
［二〇〇四］古城　則幸（政）
［二〇〇四］小橋　謙三（政）
［二〇〇四］星野　朋子（法）
［二〇〇四］工藤　一彦（法）
［二〇〇四］峠　良（法）
［二〇〇四］田村　武宏（法）
［二〇〇四］久保木宗一（政）
［二〇〇四］塚田　鉄也（政）
［二〇〇四］竹村　靖久（法）
［二〇〇四］重田　千博（政）
［二〇〇四］中村　寛（法）
［二〇〇二］布留川智美（法